

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402200		
法人名	有限会社 春陽会		
事業所名	グループホーム うらの里		
所在地	〒859-2204 長崎県南島原市有家町蒲河415番地		
自己評価作成日	平成21年11月15日	評価結果市町村受理日	平成22年1月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、ともに取り組んでいる。家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、居室への宿泊のしやすさ等)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに大型店舗や消防署・警察等があり、利便性に優れた場所に、庭木や中庭を有し、平屋の日本建築で、落ち着いた綺麗なホームである。運営者の名前の一文字を採った「春の日差し」のような所で、うらかな日を過ごして頂きたい」との思いで命名し、正しく思いを実現している。管理者は介護経験が豊富であり、職員教育にも「利用者本位で、家族だと思って接する」を職員に伝えている。食事は新鮮な物を提供する事を常として、鮮魚や野菜等、冷凍食品やレトルトは使用していない。利用者が喜ばれる事を常に念頭に置き、クリスマスプレゼントや誕生日は一人ひとりのその日に個別にお祝いをし、利用者は楽しみにしている。また、職員の生活面にも配慮した待遇であり、離職者は少なく、働きやすい環境に向け尽力している。クリスマスが近い日の調査であり、イルミネーションを飾られたホームから、利用者の笑顔と穏やかな生活が垣間見る事が出来、充実したケアが期待できるホームである

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、利用者の笑い声が聞けるよう取り組んでいる。 利用者に対する基本理念を掲げ、ホーム内にもはりだしている。	理念は「ようきに・たのしく・いきいきと」を掲げ、介護理念の5項目と一緒に掲示している。日々管理者から職員に話し、親と生活しているように利用者との生活を考え、慣れ親しんだ地域の中で楽しい生活支援を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、隣近所の人と気軽にあいさつしたり、草刈りをさせてもらったりと、交流を図っている。	施設長は地域に在住で、事務長が神輿担ぎや文化祭に参加している。踊りの会の慰問や中学校の体験学習を受託している。時には近隣の人からお花を頂いたり、地域とは自然に交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者との交流機会を作っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れ、現場での実践を図っている。	運営推進会議は議事内容を詳細に記録に残し、それぞれの参加者の役割や意見が理解できる。構成メンバーはそれぞれの立場で情報の提供や活発な意見を聞くことが出来、運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が行き来し、その時に取り入れるべき情報や内容を伝達して、利用者に応じて取り入れている。	管理者は市町村の担当者とコミュニケーションを取っている。また、市町村から得た情報については、職員に報告し、サービスの質の向上に繋げている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを基本に考え、取り組んでいる。介護保険法指定基準を再確認してさらに取り組みたい。	身体拘束に関するマニュアルを備え付け、玄関を施錠する事無く、見守り等で自由な暮らしを支援している。現在1名の利用者が転倒の危険性を考慮してペット柵を利用している。家族に話し同意を得て、実施当初には職員の検討記録を添付している。	身体拘束の定義を理解し家族の同意を得ているが、拘束を実施するうえでの手順やルールに基づき、主治医の指示や、定期的な見直し検討のための職員会議の会議録の添付等、今後の取り組みを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体、心的状況を十分に観察し、職員が互いに注意を払い、防止に努めることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等でそれぞれの制度について学ぶ機会がある。現在は無いが、必要に応じ、支援を図る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時には、十分な説明を行い、家族からの要望などを聞いたりして、理解・納得が図られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がそれぞれの意見を言える雰囲気があり、職員が受けてくれている。	利用者とは常に話をする事で理解につなげ、可能な限り希望に沿っている。家族は「おまかせします」が多いが、おむつ代が高くなることを考慮し、ホームで布オムツを提供したり、時には自宅を訪問し、会話や同意を得る事に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者は、皆で会議の上で、という考えで提案、意見を受けている。	毎朝の引継ぎ時に管理者の気付きを伝えている。毎月の職員会議や日々の会話で意見や気付きを話し合い運営に反映している。運営者は職員の生活面を考慮し、待遇の配慮に努め、離職者は少なく、働きやすい楽しい職場である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は各人に良い所があれば褒め、向上心が持てるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員それぞれに合った研修に参加できる機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、地域の勉強会などへの参加の機会を設けてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の回数を重ね、訴えや希望などを受け止めるよう配慮されている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望を、細部にわたり聞き入れられ、受け止める努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・質問などを受けた際は、現状を説明し、新たな対応については、管理者・主任へすぐ相談し、できるだけ素早い対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を一人の人間として尊重し、その人の良い所から学ぶこともあり、喜怒哀楽を共にできるよう努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と同じ立場になり、話し合いながら一緒に本人を支えていけるよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問を快く受け入れたりと、馴染みの場所へドライブしたりして支援している。	家族の面会は多くはないが、利用者を案じ、友人と一緒に受診に同行する家族もある。また、法事のための帰宅や正月の外泊(1~2名)や友人が散髪に来られる等、関係の継続をお願いしながら支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者との関わり方を観察し、各人の個性を尊重し、助け合いができるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が家族からの相談を受けたりして、継続的なつきあいをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で考え、気持ちよく過ごしていただけよう、生活スペースの工夫など柔軟に行っている。(馴染みの品の持ち込み可能)	管理者が利用者全般を詳細に理解し、申し送り等で常に伝え、経験を重ねた職員と共に共有している。現在の基本情報やアセスメントの書式は活用が困難であり、今後書式の変更を考慮中である。	利用者の思いや意向は口頭伝達も方法の手段であるが、誰が見ても分かりやすい書式として記録が必要である。生活歴やADLの理解に繋がる、必要項目を抜粋した書式の作成を期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、本人の会話の中から、情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動に心を配り、できることは褒めたり、逆に、教えてください、と伝えることで、やる気をもっていただけるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケア介護、申し送りにて、一人ひとりの状態の変化、気づきを伝え合いながら、計画を立てている。	利用者や家族の主訴に沿って、介護計画を作成している。介護計画のサービス内容を順番付け、毎日実施状況をモニタリングできる。経験や知恵を活かした新しい書式を作成している。実施状況と職員の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一定期間、あるいは必要時に介護計画の見直しを行っている。 スタッフとの話し合いで作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院への付き添いなども対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボライティアはいつでも受け入れており、福祉体験学習、踊りの会などの訪問を受け入れ、消防訓練実践など関係形成している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院受診を支援している。	入居以前からの主治医と、場合によっては、入居後、家族の了解を得て近くの医療機関に変更している。毎週、協力医療機関からの往診を受け、健康管理を支援し、利用者の安心に繋げている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時の状態について、相談して取り入れることも多い。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、管理者が訪問し、情報交換や相談に努めており、連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が家族と充分話し合い、家族の意向に沿って援助している。	今までに8～9名の看取りを経験している。利用者の状態の悪化に伴い、家族に相談し、入院又はホームでの意向を聞いている。医師の指示に基づき、管理者を中心に、職員と協力し支援している。また、看取り後はエンゼルケアを行い送り出している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急救法の講習などを受講し、対応できるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの消防訓練を年2回と、毎月の訓練で、適切な行動がとれるよう努めている。	消防署立会いで夜間を想定した火災・避難訓練の実施を行い、訓練の見学に来られた地域の人には、施設内を見学して頂き、状況把握をお願いしている。地震に関しては、消防署の説明を受けている。また、備蓄や持ち出し品の準備には至っていない。	非常時を想定すると何時如何なる時に発生するか分からない意味でも繰り返した訓練が望まれる。また、非常時における備蓄(水・食料・携帯コンロ・寒さを凌げる物等)や持ち出し品(利用者にとって必要不可欠な品等)の準備を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心を傷つけないよう努めている。	人格の尊重を理念に謳い、会議や職員が集まる機会あるごとに、管理者が話している。耳が遠い利用者には耳元で話し、言葉かけや対応には注意を払っている。また、個人情報は保管庫に施錠し、情報の漏洩に配慮して取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さんに対して、その都度声かけ、説明しながら対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さんの状態や気分に合わせて休んでもらったり、また、再度、声かけやスムーズに参加しやすいような雰囲気作りをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面時など、身だしなみを気にされる方は十分に声かけ、理容美容は、得意な職員が対応している。 店を希望される方は、送迎もしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューや味付けで、一緒に準備、食事、片付けをしている。	運営者は野菜を植栽しており、時には利用者と一緒に収穫する事がある。新鮮な野菜や鮮魚を食材としており、冷凍食品は一切使用せず、美味しいものをとの考えで支援している。利用者は出来る事を手伝い、おやつや食事は完食している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ摂取量チェック、また、排尿・排便チェックにより、水分の摂取状況を考え、対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに応じた誘導、声かけ介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよく排泄できるよう、各人の排泄パターンに沿った支援に努めている。 本人の能力低下に苦慮している。	排泄パターンの把握に努め、手作りの布オムツ等で、排泄の自立に繋がった事がある。オムツからリハビリパンツにしたり、自室のトイレでの排泄に努め、出来るだけ機能の維持向上に向けた支援を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を工夫したり、運動を取り入れたりして配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は各人設定しているが、必要に応じ、希望時にも入浴してもらっている。	毎日入浴できる状態にお風呂の準備ができています。バイタルチェック後に入浴し、毎日や2日に1回のペースで支援している。時には柚子湯等で気分を変えたり、拒否者も巧みな誘いで、週2～3日は入って頂いている。また、失禁時はシャワー浴を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活リズムを尊重しながら、健康的に過ごせるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読んで理解し、状態確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、洗濯物たたみなど、本人さんに感謝の気持ちを伝え、張り合いをもっていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、本人さんの状態により可能であれば、中庭での日光浴、外周の散歩など実践している。	今年度はインフルエンザで外出が困難であるが、ホームの中庭には、クリスマスツリーを、庭の木々にはイルミネーションを飾り、利用者が外に目を向ける工夫をしている。入居者の介護度で、座位が保てる人はドライブ等をしているが、全員での外出は困難になっているのが現状である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで落ち着かれる方は持っただけで、本人の希望される品の代理購入もしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの要望を充分聞き、また、その相手への配慮、確認を取りながら、できる限り対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花や、行事ごとの飾りをするにより、利用者の方々にその時々々の行事、季節を感じてもらえるようにしている。	庭木や中庭の木々から季節の移ろいを感じられ、窓越しに眺める事ができる。リビングや廊下は広く、綺麗に掃除が行き届いており、加湿器を設置し、心地よい環境である。食卓やソファや畳の部分とその人の好きな場所で過ごせる居場所の確保ができています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いスペースがあり、テレビを見たり、テーブルで作業したり、畳でくつろいだりと、希望の行動がとれている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を取り入れ、使い慣れたもの、好みのものを使用してもらっている。	居室には全室トイレがあり、利用者は自室で排泄しており、リビングと居室を行き来している。それぞれ変化のある居室作りで、お位牌や遺影を持って来ている人や、家族の写真、椅子や衣装ケース等必要な物を持ち込み居心地よく過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、歩行場所には手すりもあり、車椅子で自力操作できるスペースもある。		